



親鸞聖人750回大遠忌

法要・記念事業完了!



記念事業により完成なった参拝ホール（20.11.9報恩講）



発行所
岡谷市郷田一丁目6番3号
TEL(0266)22-2524
金松山 敬念寺
発行
敬念寺門信徒会
編集
会報組織委員会

朝7時はみ仏さまや
彼(か)の人との
出会い(であ)いの時間



かつての本堂の外観（18.3.21春彼岸）

敬念寺だより

第百号目次

| | | |
|----------------|------|--------------|
| 平成二十二年度年次総会報告 | 2 P | 親鸞聖人七百五十回大遠忌 |
| 門信徒会役員紹介 | 3 P | 法要・記念事業報告 |
| 教章の使われ方紹介・青色青光 | 4 P | |
| 敬念寺だより百号記念特集 | 6 P | |
| 金松山敬念寺小史 | 7 P | ご遺志金 |
| 写真で見る敬念寺小史 | 8 P | 門信徒会費のお願い |
| | | 8 P |
| | 12 P | 11 P |

ご寺院案内行事

- 7月10日(土) 第27回ファミリー参拝 後 6:00
- 8月 1日(日) 新盆合同法要 前 10:00
- 8月 1日(日) 第31回早朝連続参拝 前 5:30
～10日(火)
- 8月16日(月) 孟蘭盆法要 前 10:00

ご定例案法話内会

- 6月20日(日) 講師 木曾 隆先生(新潟県)
- 7月20日(火) 講師 佐々木教章先生(福井県)
- 8月20日(金) 講師 (未定)
- 9月20日(月) 講師 橋多 哲也先生(兵庫県)
いずれも毎月20日 夜7:00からです

平成二十二年度年次総会並びに 実施委員会解散総会開催さる

平成二十二年度敬念寺門信徒会年次総会と、親鸞聖人七百五十回大遠忌法要・記念事業実施委員会最終総会が四月二十四日開催された。総会に先立ち、講堂にて記念撮影が行われた。八十五名のお世話人（代議員）の出席を得て開会。大洞門信徒会長から「役員任期を一年延長し事業を進めてきたが、との挨拶をいたいた後、議長に宮崎正行氏を選出し議案の審議が行われた。

年次総会では、平成二十一年度事業・決算報告、二十二年度事業計画・予算を原案どおり承認。また、役員選考委員会から提案された次期役員案が承認され、新しい門信徒会長には小池健蔵氏が選出された。なお、奉仕委員会を「社会奉仕委員会」に組織替えし、役員に「教化団体代表者」を追加する規約改正も承認された。引き続き実施委員会最終総会が

開催され、法要・記念事業「やさしい寺造り事業」の実施経過及び収支決算について報告があり、撮影が行われた。最後に大洞門信徒会長が挨拶に立ち、「外部の方々からも使いやすい寺だと評価されている。歴史に残る事業だった。おかげさまと親鸞様に感謝する」と述べ、解散を宣言し一大事業を成し遂げた同委員会の取り組みに幕が閉じられた。



総会にて報告する大洞軍治門信徒会長



ほか役員の皆さん
退任挨拶する大洞前会長

記念品の浄土真宗「教章」は このように使われています！

昨年十一月八日親鸞聖人七百五十九大遠忌お待ち受け法要・記念事業完成慶讚法要が厳かに執り行われました。記念品として、「教章（私の生きる道）」を頂くことができました。皆さんはその「教章」をどのよう所に置かれ、どのような想いで向き合つておられるのか、朝のお勤めに毎日参拝されている方々にお尋ねしてみました。



和讃卓の上に置く



小壁に掲げる

「教章」は大切なものとして日頃から、大切な物を置く場所に、一緒に置いてある。又、大きな「教章」を買い求めたので、それをお仏壇の上の小壁に掲げ、頂いた「教章」は茶の間の端に置いてある。そして又、ガラス棚の中に。と、置いてある所は様々です。和讃卓を置き、その上に立ててお参りの際「教章」を読むことができるようにしてある。など、家族の目に触れるようにと願つていました。

さて、教章の教義では、○阿弥陀如来の本願力によつて信心をめぐまれ、**念佛**申す人生を歩み、この世の縁が尽きるとき淨土に生まれて仏になり、迷いの世に還つて人々を教化する。とあり。

○生活は、親鸞聖人の教えにみちびかれて阿弥陀如来のみ心を聞き、念佛を称えつつ、つねにわが身をぶり

○この宗門は親鸞聖人の教えを仰ぎ、祈祷などにたよることなく、御恩報謝の生活を送る。
念仏申す人々の集う同胞教団であり、人々に阿弥陀如來の知恵と慈悲を伝える教団である。それによつて自他ともに心豊かに生きることのできる社会の実現に貢献する。——大変難しそうに思える文ですが「念仏あるのみ」と解釈したら如何かと思うのです。それが（私の生きる道）であると考えます。

(滝川 記)



比較的低い声と、おだやかな口調でお話をされる川窪さんを訪ねました。いつも変わらない笑顔で、礼儀正しいお人柄に接してみて信頼を得て当然であると改めて感じます。川窪さんと敬念寺とのご縁をお聞きしてみましたが、敬念寺の門徒になることを希望し、他のお寺から移られたとのこと。

お寺の役員を受けられて、早や九年。初めは、会報組織委員長で

しょうしき
青色
しょうこう
青光

五十四回

人との交わりを大切に
川窪 輝子さん
岡谷市川岸

川窪さんは、とても美しい声で歌います。コールガングーのメンバーでもあり、近くで耳を澄ましていると、ひときわ透き通つた声が聞こえてきます。街のコーラスグループにも加わって、施設等を慰問されていらっしゃいます。また、俳句にも趣味をもち仲間の方々と自然の中に身を置き、心の表現をされています。

人との交わりを大切にし、積極的に行動されている姿は羨ましくさえ感じます。役員改選の行われた今総会をもつて役を退かれた川窪さんですが、今は地区のいきいきデイの支援をされており、お年寄りとの関わりに、ご自分の生き甲斐をまた一つ、見つけられたよう

(滝川 記)

した。年に何回かの会報発行のため、住職様と数回に涉る打合せに奔走し大変御苦労された様に思います。その後、奉仕委員会副委員長の責務を担わされました。川窪さんは、その間にとても楽しかったことはガラス磨きのご奉仕だったとおっしゃいます。数少ないメンバーにて、和やかな雰囲気で働くことができたとのことです。きっと美しく光るガラスを眺めての達成感を味わつたことでしょう。

川窪さんは、とても美しい声で歌います。コールガングーのメンバーでもあり、近くで耳を澄ましていると、ひときわ透き通つた声が聞こえてきます。街のコーラスグループにも加わって、施設等を慰問されていらっしゃいます。また、俳句にも趣味をもち仲間の方々と自然の中に身を置き、心の表現をされています。

人との交わりを大切にし、積極的に行動されている姿は羨ましくさえ感じます。役員改選の行われた今総会をもつて役を退かれた川窪さんですが、今は地区のいきいきデイの支援をされており、お年寄りとの関わりに、ご自分の生き甲斐をまた一つ、見つけられたよ

敬念寺だより一〇〇号記念!

金松山敬念寺小史

敬念寺だよりは、今号で節目の百号を迎えた。これを機に、歴代住職の足跡をたどって、岡谷の地にみ教えの種を播き根を張った敬念寺の歩みを記す。



初代住職 三直師



二代住職 直躬師

昭和二十年から三十年代は、戦中戦後の動乱期。戦時中は住職病弱のため兵役を免れ、専ら大政翼賛会の主要メンバーとして軍事工場への講師など、戦時体制に法務と共に活躍した。敗戦後は戦争協力者としての反省の上に立つて捨身して大悲伝化、人間愛の精神を以つて門信徒を中心に仏道に精進し、昭和四十年本堂建立を発願、昭和四十八年この地方初の近代的本堂建立、昭和五十年落慶法要を厳修した。昭和四十一年には第三代住職候補を迎え、昭和五十四年住職継職式を行なった。



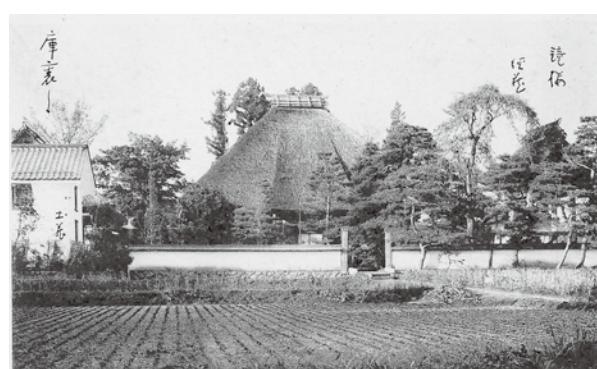
三代住職 玄真師

北信濃三水村上赤塩の敬念寺第十三代住職の傍ら経済的な事由もあり、自坊寺役は坊守松枝に委ね、本山の重職の北陸篤信地の主な別院の輪番職を勤め活躍。大正末期故郷の信州諏訪湖畔平野村が一躍生糸産業で隆盛を極め、北信を始め北陸・東海・新潟より若年女子の流入により人口が激増し岡谷市が誕生。篤信地よりの要請もあり本山に申し出、内地開教地としての拠点・敬念寺岡谷説教所を開設。最初は岡谷区の民家の二階を間借りし、休日を中心に法話会、行儀作法、歌唱など活動写真しか娛

平安中学（現在の平安高校）を卒業した長子直躬を岡谷駐在布教使に任じ本格的な浄土真宗の布教をするに至った。

昭和に入り人口流入は加速し、狭い土地に人口密度は高く子女の両親も岡谷に移住。葬儀や墓は因習が強く地元寺院が受け入れない閉鎖的風土に鑑み、篤信の有志が結束し説教所を寺院に昇格・設立の機運高まり、新屋敷地籍キネマ映画館付近に説教所を建立。上高井郡の廢寺照蓮寺より寺籍を譲り受け、赤塩敬念寺より御本尊阿弥陀如来を迎える名実共に浄土真宗本願寺末寺のお寺が誕生した。

住職は赤塩敬念寺三直が兼務したが、実質的には直躬が副住職として専従。院代を常時二名おき、法務並びに旺盛な布教活動を展開し、信徒を擁したと記されている。



三水村の敬念寺(きょうねんじ):昭和3年

このほど、親鸞聖人七百五十回大遠忌を迎えるにあたり記念事業として本堂の耐震補強工事・境内段差解消のためのバリアフリー工事・参拝ホールの新設などを完成させやさしい寺づくりを推し進め今日に至っている。(玄真 記)

このほど、親鸞聖人七百五十回大遠忌を迎えるにあたり記念事業として本堂の耐震補強工事・境内段差解消のためのバリアフリー工事・参拝ホールの新設などを完成させやさしい寺づくりを推し進め今日に至っている。(玄真 記)

昭和五十四年、十二年間の中学教育の職を辞し三代住職を継職。爾來、寺院機能の活性化、伝道教化に目覚ましい活動を展開、朝七時の常朝事を中心に日曜礼拝、壮年部の結成、昭和五十六年には婦人部等の教化団体を発足させ、車の両輪として早朝連続参拝、全国各地より布教師を招待しての通年常例法話会の開設など、従来の法要・行事に新風を吹きこみ、新生敬念寺が誕生した。

墓地造成などにより門信徒の数も飛躍的に増加、檀信徒会を門信徒会に改め機構改革も進めた。

平成四年には門信徒の総力を結集し会館庫裡建設、平成十年には本堂を破風屋根に大改修するなど山内を一新した。

敬念寺だより100号記念

写真で見る敬念寺小史



岡谷説教所新築落成(中央は三直師)



新屋敷に昭和2年新築の岡谷説教所:昭和5年1月に類焼した



昭和5年末に現在地へ移転した当時の敬念寺



説教所前での記念写真(中央が直躬師)



移転当時の旧庫裡前での記念撮影(中央は直躬住職)



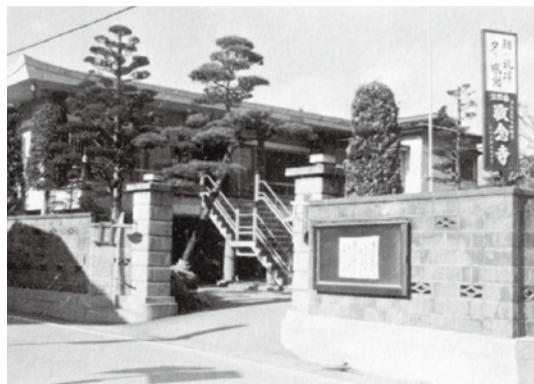
移転した当時の裏側からの敬念寺遠景(昭和5年)



現本堂地鎮法要(昭和47年5月)



増改築記念役員一同(中央は直躬住職:35.11.21)



破風屋根に改修する前の本堂



旧本堂と旧庫裡

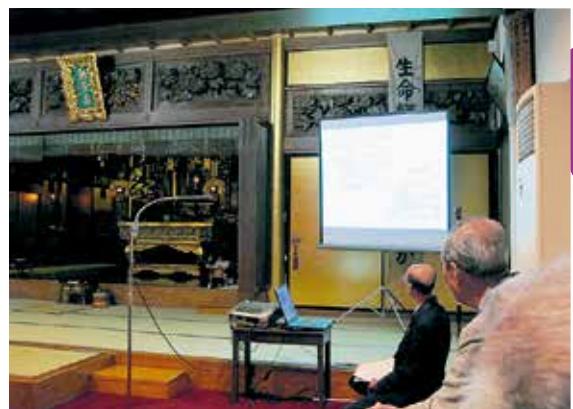
写真で見る敬念寺小史
敬念寺だより—100号記念！



平成20年6月



会館・庫裡落成(平成5年)



パワーポイントで事業計画を説明(19.6.10実施委員会総会)



本堂にて工事請負契約調印(19.7.10)



総会に向けて事業計画を検討する役員(19.4.16)



記念事業を広報する看板を設置(19.9)



事業概要を紹介したイラスト

本堂耐震補強事業

筋交いを入れて補強(19.8.1)
左:本堂内部 上:本堂床など

柱の基礎を補強(19.8.1)



参拝ホール設置により急な階段も解消されました



参拝ホール増築事業



鉄骨工事(20.1.12)



内装吹き付け工事(20.3.9.)

進捗状況を視察(20.2.10)

金箔を貼る前のうるし塗り工事(20.7.12.)



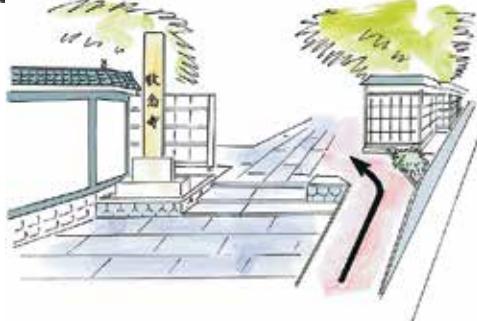
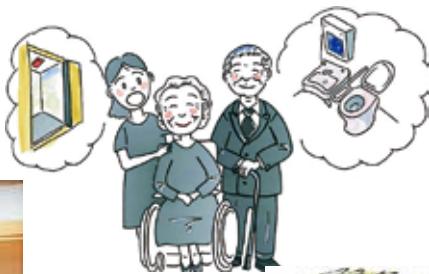
(20.5.10)

参拝ホール引き渡し式(20.7.29)

境内バリアフリー事業



1階～2階(本堂・講堂)までのエレベーターを設置(19.11.10)



イスを選定する役員(20.10.16)



試作で改造した座卓を点検



親鸞聖人750回大遠忌 法要・記念事業実施委員会総会 (平成22年4月24日)

みんなで唱えましょう
【食事のことば】



このたび「食事のことば」が改定されました。

お寺の行事では会席者一同で唱えていますが、各ご家庭でも、「食事のことば」を唱えましょう。

食前のことば

多くのいのちと、みなさまのおかげにより、このごちそうをめぐまれました。

深くご恩を喜び、ありがとうございます。

食後のことば

尊いおめぐみをおいしくいただき、ますます御恩報謝につとめます。



記念法要でのお斎の様子 (21.11.8)

第27回 敬念寺ファミリー参拝のお知らせ

日時：7月10日(土) 夜6時～8時

会場：敬念寺本堂ならびに境内

内容：「おつとめ」「プロジェクトー紙芝居」「お話し」「コールガンダー合唱」「流しソーメン」「輪なげ」「全員ジャンケン大会」「綿あめ」「ポップコーン」「焼きイカ」「生ビール」「麦茶」を予定

ご家族おそろいでお出かけください。

（おつとめがありますので、念珠をお持ちください）

○ご依頼額は年間三千円以上

今年も寺の維持管理の資金、更なる教化活動の振興のため、会費のお願いに担当のお世話人が近日中にお伺いしますが、ご協力の程お願いします。

門信徒会費

七月末日までに

ご協力お願い

第三十一回 早朝連続参拝のお知らせ

八月一日(日)～十日(火)
朝五時半～六時半

お勤め、法話、感話等

大勢の皆様のご参加お待ちしています！（本堂・会館は参拝者に優しいイス席となりました。）

編集後記

皆様のご協力により親鸞聖人七百五十回大遠忌法要・記念事業がめでたく完了しました。実施委員長からのご報告と写真による記録を掲載させていただきました。

さる四月の年次総会で、次期四年間の役員体制が決まり、新たに婦人部長が役員に参画するとともに、奉仕委員会が社会奉仕委員会に組織替えとなりました。今号は記念すべき百号となりました。手書きの一号から、カラーA4版の百号へと歩んでまいりました。今回、百号記念として敬念寺小史を特集しました。敬念寺だよりはこれからも、門信徒の皆様への情報発信の一角を担つてまいりますので、お力添えをお願いいたします。ご意見・ご感想などお寺やお世話人の皆様にお寄せください。（白田記）